



中也がむすぶ山口と福島

yamaguchi * fukushima

ての
の
な
か
の
詩
、
て
の
ひ
ら
の
歌

詩の二都物語 2009

てのなかの詩、
てのひらの歌

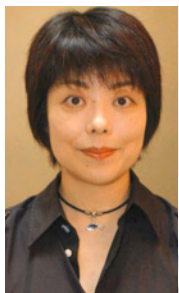
teno teno

2009 2.15sun

開場13:30 開演 第1部14:00 第2部15:20

会 場／福島テルサFTホール 全席自由

入場料／前売1,000円 当日1,500円



俵 万智



谷川賢作



和合亮一

第1部

「中也がむすぶ山口と福島 詩の二都物語」

出演／俵万智 谷川賢作 和合亮一

山口市長 渡辺純忠 福島市長 瀬戸孝則 他

第2部

ことばのミュージアム2009

「てのなかの詩、てのひらの歌」

出演／俵万智 谷川賢作 和合亮一

主 催 NPO法人うつくしまブランチ

共 催 (第1部) 山口市 福島市 (第2部) 福島民報社

後 援 山口市教育委員会 福島市教育委員会 (財) 山口市文化振興財団

福島民報社(第1部) 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 毎日新聞福島支局 読売新聞社東京本社福島支局 産経新聞福島支局 河北新報社

NHK福島放送局 福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送 テレビユー福島 ラジオ福島 ふくしまFM 福島コミュニティ放送FMポコ

福島リビング新聞社 シティ情報ふくしま 朝日ファンズ

中也がむすぶ山口と福島

yamaguchi * fukushima

prologue

山口と福島と和合亮一

山口市で中原中也賞を頂戴して以来、私という詩人は、山口に有っていただいた。何度も中也の故郷にうかがわせていただき、彼が愛していたであろう、かの地の風や光に触れた。書き継ぎながら、いつも詩のふるさとを思った。この西の都を想った。まなざしたしたのは中原中也の、山口に今も息づいている風土への愛であったのかもしれない。受賞して十年が経った。

そして福島を私は愛して止まない。祖先が生きて、私の家族や友が暮らしているこの地の、ほんとうの空と、変わらない郷土の愛。私の書く詩には、いつもこの福島という東の都の呼吸がある。やがて東西の二都を出会わせたい。このことは私の長年の憧れであった。大きな夢を棲まわせたい。山口と福島、この二つの詩の街に。

てのなかで、てのひらで、手を結び。

「てのなかの詩、てのひらの歌」

2009 2.15sun

開場13:30 開演 第1部14:00 第2部15:20

会場/福島テルサFTホール 全席自由
入場料/前売1,000円 当日1,500円

第1部

(共催: 山口市・福島市)

「中也がむすぶ山口と福島 詩の二都物語」

出演/ 俵万智

谷川賢作

和合亮一

山口市長 渡辺純忠

福島市長 瀬戸孝則 他

◎ウェルカム朗読

鏡田辰也 (ラジオ福島アナウンサー)

丹沢研二 (NHK福島放送局アナウンサー)

浜中順子 (福島テレビアナウンサー)

水津邦治 (テレビユー福島アナウンサー) 他

◎山口市長、福島市長 ウェルカム&トーク

司会: 和合亮一

◎俵万智 谷川賢作 朗読ライブ

第2部

(共催: 福島民報社)

ことばのミュージアム2009

「てのなかの詩、てのひらの歌」

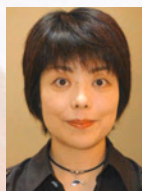
詩、短歌、音楽のコラボによる

トーク&パフォーマンス

出演/ 俵万智

谷川賢作

和合亮一



俵万智(たわら まち)
歌人。早稲田大学在学中に佐佐木幸綱に出会い、作歌をはじめ。87年第一歌集『サラダ記念日』を出版、ベストセラーになる(翌年同書で現代歌人協会賞受賞)。歌集に『チョコレート革命』、『フーさんの鼻』(若山牧水賞)など。評論『愛する源氏物語』(紫式部文学賞)、エッセイ集『かーかん、はあい子どもと本と私』など著書多数。仙台市在住。



谷川賢作(たにかわけんさく)
音楽家。アンスクルにてピアノ及び音楽理論を佐藤允彦に師事。88、95、97年日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。95年第40回アジア太平洋映画祭最優秀音楽賞受賞。96年現代詩を歌うグループDiVaを結成、父である詩人谷川俊太郎とともに全国各地で音楽と朗読のコンサートコラボレートCDリリースなどが各方面から絶賛される。



和合亮一
詩人。第1詩集『AFTER』で中原中也賞受賞(1999)。第4詩集『地球頭脳詩篇』で晩翠賞受賞(2006)。2007年に中国国際詩祭にて日本代表詩人に選ばれた。昨年は福島市街地「光のしずくプロジェクト」で74本の樹木に作詩。谷川賢作氏と県立医科大学学生歌制作。朝日カルチャーセンター(新宿)で公開講座担当中。また読売新聞文化欄などで時評を担当している。

山口市と
中也

yamaguchi

山口市は、豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市となっています。また、大内氏時代や明治維新開連の歴史や文化資源が今に残されており、約六〇〇年の歴史を持つ湯田温泉などを含めて、観光地としての魅力も備えた都市となっています。

山口県のほぼ中央に位置する山口市。瀬戸内海側、日本海側、山間部へと県内各地へは、およそ1時間以内で行くことができます。



中原中也
Chūya Nakagawa

文学史上に大きな足跡を残した近代詩人中原中也は、明治40(1907)年4月29日、現在の山口市湯田温泉に生まれました。下宇野令小学校、山口師範附属小学校から山口中学に入学。小学校高学年より短歌を制作、雑誌や新聞の歌壇に投稿をはじめます。その後、ますます文学に熱中し、中学3年で落第。立命館中学へ転校のため京都へ移り、高橋新吉や富永太郎の影響を受けて、詩人としての道を歩みはじめます。大正14(1925)年上京。小林秀雄、河上徹太郎、大岡昇平らを知り、昭和4(1929)年、河上ら友人たちと同人誌「白痴群」を創刊。昭和9(1934)年には、第一詩集『山羊の歌』を出版し、詩壇にも認められるに至りました。「四季」「歷程」「文学界」などの雑誌にも詩を発表。また、フランス詩の翻訳も手がけ、訳詩集『ランボオ詩集』も刊行します。昭和12(1937)10月22日、山口への帰郷を願いつつ、鎌倉の地で30歳の短い生涯を閉じました。自らまとめ、小林秀雄に託した第二詩集『在りし日の歌』は、友人たちの尽力で昭和13(1938)年4月に刊行されました。その生涯を詩人として生き抜いた中也は、珠玉の詩篇を後世に残し、日本をはじめ海外にも知られ、多くの人々に愛されています。

写真・資料提供: 中原中也記念館

前売券のお求めは

福島県文化センター、プレイガイド(中合福島店・エスパル福島店)
ランチ事務局

【お問い合わせは】 NPO法人 うつくしまブランチ

事務局◆〒960-8068 福島市太田町27-21 TEL024-536-3103 FAX024-536-3090

E-mail post@npo-branch.com http://www.npo-branch.com